

多摩都市モノレール延伸部 駅舎デザインコンペ【（仮称）No. 3 駅】

駅のコンセプトとの整合、美しさ、独創性、まちとの調和、施工性・経済性、維持管理等の観点から一次審査を実施した結果、以下の4作品が通過となりました。

No. 3 駅

駅のコンセプト：様々な施設が集まる沿線の核としての風格を備え、賑わいや楽しさを感じる

LOOP / FOREST

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



北東から見たパース

【デザイン説明】

分断されがちな駅南北動線を一体的につなぎ直すことを目指す。駅南北のそれぞれ異なる形状を持つエスカレーターに呼応するように狭山丘陵の自然を表現した木調アルミパネルを展開。

さらに、その帯状の外装をブリッジ下で連続させることで、南北を貫くベルト状の大きなファサードを形成した。駅の南北を貫く「トンネル状の空間」として構成することで、単なる移動空間ではなく、狭山丘陵の自然を散策するような体験を目指している。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 3 駅

駅のコネプト：様々な施設が集まる沿線の核としての風格を備え、賑わいや楽しさを感じる

移動視点がつくる駅景観

※作品が提出された順に提示しています



北東から見たパース



南西から見たパース

【デザイン説明】

モノレール駅は、近づいて見る建築ではなく、車窓や沿道から移動しながら体験される建築である。本提案では、外側の丸孔パンチングメタルと内側の流線孔パネルを重ねた二重外皮を採用し、視点移動や列車通過によってモアレ模様に変化する駅景観を形成する。光や人の気配が柔らかく滲み出ること、沿線に動きと安心感を与える、モノレール特有の移動体験を建築化した駅ファサードを提案する。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 3 駅

駅のコネプト：様々な施設が集まる沿線の核としての風格を備え、賑わいや楽しさを感じる

アーチ・ステーション

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



北東から見たパース

【デザイン説明】

レンガ仕上げ調のアーチの列柱を、ステンレスメッシュのカーテンで柔らかく覆います。外観からは、まちの中心となる駅にふさわしい存在感や風格と、カーテンに包まれた穏やかさが感じとれます。

エキナカからは、人びとが自然に集まりたくなる、リビングルームのように居心地良くにぎやかな駅前空間と、狭山丘陵の雄大な眺めが広がります。

こうして、力強さと柔らかさを併せ持つ、「地域と未来をつなぐ架け橋」となる駅のデザインが生まれます。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 3 駅

駅のコネプト：様々な施設が集まる沿線の核としての風格を備え、賑わいや楽しさを感じる

光の核心

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



南西から見たパース

【デザイン説明】

伝統織物の形態を直接的に模倣するのではなく、素材の透過性と光の干渉を通じて「村山大島紬」の美学を再構築する。

ジグザグの角度変化が生み出す陰影のグラデーションと、ポリカードネートパネルの細微な中空リブの相乗効果により、織物の「経糸のリズム」と「絹の立体的な光沢」を現代建築へと昇華させた。

この外皮は「現代の障子」として機能し、夜間は街の安全を導く「都市の提灯」へと鮮やかに変貌する地上からのアプローチはドラマチックに構成される。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

多摩都市モノレール延伸部 駅舎デザインコンペ【（仮称）No. 6 駅】

駅のコネプトとの整合、美しさ、独創性、まちとの調和、施工性・経済性、維持管理等の観点から一次審査を実施した結果、以下の4作品が通過となりました

No. 6 駅

駅のコネプト：狭山丘陵の風景と調和しながら、未来を感じさせる

CLOUD

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



南西から見たパース

【デザイン説明】

駅のコネプトより、駅の外サードのモチーフを「空に浮かぶ雲」とした。「狭山丘陵の風景」の一部となっている「空に浮かぶ雲」を、モノレールが水平移動であることから「水平線によるデジタル化」を行うことにより自然と人工を繋げ、未来を感じさせるデザインを目指した。

「空に浮かぶ雲」の「水平線によるデジタル化」は、水平に連続するアルミ角パイプと水平に断片的に挿入されたアルミ角パイプにより表現した。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 6 駅

駅のコネプト：狭山丘陵の風景と調和しながら、未来を感じさせる

風景の像

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



北東から見たパース

【デザイン説明】

瑞穂町の風景である空、狭山丘陵、街並みからサンプリングした色彩を線状に再構成し、地域固有の風景を表現する駅舎を計画した。外壁上部は空に融け込み、下部は街並みに寄り添うことで、周囲の風景へと連続する建築としている。

加えて、部分的に鏡面素材を挿入することで、雲や人、季節の変化が映り込み、編集された風景と現実の風景が重なり合う「風景の像」として立ち現れる。駅舎が「場」と「時間」をつなぐように、この建築は「地域の風景（場）」と「うつろい（時間）」を重ね合わせた。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 6 駅

駅のコネプト：狭山丘陵の風景と調和しながら、未来を感じさせる

地形を紡ぎ、風景を架ける駅舎

※作品が提出された順に提示しています



北東から見たパース



北東から見たパース

【デザイン説明】

モノレールを人工的な土木構造物としてではなく、大地を横断するランドスケープとして捉え、狭山丘陵の起伏や木々が生む自然のリズムを、有機的な曲線を描く半透明ファサードとして表象する提案。

コンクリートの構造体に、金属の立体格子とポリカーボネートを段階的に重ねることで大地と空をつなぎ、朝は空に溶け、夕暮れにはまちをやわらかく照らす行灯のような駅舎を構想した。

既製材を組み合わせ、施工性・維持管理性を高めながら、新しい都市の風景を生み出すことを目指した。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

No. 6 駅

駅のコネプト：狭山丘陵の風景と調和しながら、未来を感じさせる

武蔵野瑞穂の原風景

※作品が提出された順に提示しています



南西から見たパース



北東から見たパース

【デザイン説明】

「狭山丘陵の雑木林」が広がる風景をモチーフに、孔径・開口率の異なるパンチングメタルを組み合わせ、奥行感と透過性に変化を持つファサードを構成します。

モノレールや利用者、周辺景観との関係性に応じて多様な見え方を生み出し、樹木の幹や木立の陰影を立面的に表現します。

天候や時間帯、見る位置によって移ろう武蔵野瑞穂の風景を映し出し、この地の原風景が新たな街の玄関口となることを目指します。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

多摩都市モノレール延伸部 駅舎デザイン案【（仮称） No. 1、2、4、5、7 駅】

➤ 延伸部全体のブランド化に向けデザインの一貫性を確保するため、**延伸部全体のコンセプト※**を踏まえたテーマ（狭山丘陵の森、水、空）を設定し、シリーズ化しました。

※ 延伸部全体のコンセプト：沿線でつながる空と狭山丘陵の緑の広がりや、地域の良さが人の五感に響く

➤ 各テーマと各駅のコンセプトを組み合わせ、各駅3案を作成しました。

駅のコンセプト 延伸部全体のコンセプト：沿線でつながる空と狭山丘陵の緑の広がりや、地域の良さが人の五感に響く					
	No.1駅	No.2駅	No.4駅	No.5駅	No.7駅
	新しいまちの玄関口として、明るく子供たちがワクワクする	「やさしさ」と「やすらぎ」に包まれ、病院や市民センターなどを訪れる人の気分が向上する	自転車道の桜並木と調和し、自然のかけめぐりを感じる	生き生きと心や体がゆれ躍り、川の音や流れを感じる	宿場町の歴史が感じられ、人々の往来や交流で賑わい「はじまり」を予感させる
テーマ1 狭山丘陵の森					
テーマ2 狭山丘陵の水					
テーマ3 狭山丘陵の空					

狭山丘陵の森：

- ・ 狭山丘陵の**多様な森**を想起させるデザイン
- ・ 樹木や川、土壌といった森の要素を表現

狭山丘陵の水：

- ・ 狭山丘陵の**豊かな水**を想起させるデザイン
- ・ 静かな流れ、沢や湿地といった水を表現

狭山丘陵の空：

- ・ 狭山丘陵の**様々な空**を想起させるデザイン
- ・ 時間帯や季節・天候によって変化する空を表現

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

【各駅のデザイン案及びデザイン説明】

No. 1 駅

駅のコンセプト：新しいまちの玄関口として、明るく子供たちがワクワクする

狭山丘陵の森



【デザイン説明】

温かみのある素材により、生命のはじまりや森の土壌の豊かさを表現するとともに、日の光をキラキラと反射させることで、新しいまちの玄関口として、明るく、子供が楽しめる駅とする。

狭山丘陵の水



【デザイン説明】

朝露を想起させる外壁に、多様な色彩を散りばめることで、見る位置によって表情が変わり、新しいまちの玄関口として子供も大人もワクワクする駅とする。

狭山丘陵の空



【デザイン説明】

青空色が朝の澄んだ空を表現するとともに、差し色を散りばめることで、見上げるたびに新しい発見があり、新しいまちの玄関口として子どもの好奇心を引き出す駅とする。

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

【各駅のデザイン案及びデザイン説明】

No. 2 駅

駅のコンセプト：「やさしさ」と「やすらぎ」に包まれ、病院や市民センターなどを訪れる人の気分が向上する

狭山丘陵の森



【デザイン説明】

森の濃淡を表現することにより、やすらぎや癒しを与えると同時に、分散した開口部から差し込む光により、病院や市民センターへ向かう人を穏やかに迎える駅とする。

狭山丘陵の水



【デザイン説明】

水面の揺らぎを表現することにより、やすらぎや軽やかな印象を与えると同時に、反射を抑えた外壁に映る柔らかな光により、やさしさが感じられる清潔な駅とする。

狭山丘陵の空



【デザイン説明】

外壁に穏やかな空を映し出すことにより、やすらぎを与えると同時に、隙間からこぼれる光により、病院や市民センターへ向かう人が安心し、気分が向上する駅とする。

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

【各駅のデザイン案及びデザイン説明】

No. 4 駅

駅のコンセプト：自転車道の桜並木と調和し、自然のかけめぐりを感じる

狭山丘陵の森



【デザイン説明】

柱状のパターンで桜並木や森の木立のリズムを表現するとともに、色調の変化により、季節の移ろいを表すことで、自然のかけめぐりを感じられる駅とする。

狭山丘陵の水



【デザイン説明】

外壁をスリット状とし、開口部を流線形にすることにより水の流れを表現するとともに、着色した柱が桜並木を表すことで、自然のかけめぐりを感じられる駅とする。

狭山丘陵の空



【デザイン説明】

外壁の粗密の変化により並木を通り抜ける風の流れを表現するとともに、視点に応じて表情が移ろい、風が吹き抜けるたび、自然のかけめぐりが感じられる駅とする。

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

【各駅のデザイン案及びデザイン説明】

No. 5 駅

駅のコンセプト：生き生きと心や体がゆれ躍り、川の音や流れを感じる

狭山丘陵の森



【デザイン説明】

長短のパターンにより、川面のきらめきとゆらぎを表現するとともに、開口の形状により、川の流れを表すことで、水平方向にリズムや光の変化を生み出し、躍動感のある駅とする。

狭山丘陵の水



【デザイン説明】

素材を平行に組み合わせて川の流れを表現するとともに、光の細かな反射が沢のきらめきを表すことで、時間や視点で揺れる表情が、心や体を躍らせる駅とする。

狭山丘陵の空



【デザイン説明】

外壁に空を写し、反射と透けの重なりが川面を表現するとともに、歪ませた形状が波紋を表し、視点により変化する表情や、風により発生する音が、心と体を躍らせる駅とする。

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。

【各駅のデザイン案及びデザイン説明】

No. 7 駅

駅のコンセプト：宿場町の歴史が感じられ、人々の往来や交流で賑わい「はじまり」を予感させる

狭山丘陵の森



【デザイン説明】

多様な色彩や質感を組み合わせることで、人々の往来や賑わいを表現するとともに、温かみのある素材により、森を支える土壌や命の循環を表し、過去から未来へのはじまりを予感させる駅とする。

狭山丘陵の水



【デザイン説明】

光の反射により、水面を表現するとともに、外壁に散りばめた個々の素材が光と陰影を作り、人々の往来や賑わいと宿場町の歴史を感じさせる駅とする。

狭山丘陵の空



【デザイン説明】

光の反射と透過により、空や周辺景観を映し出すとともに、内部の人の気配をやわらかくにじませ、人々の往来や賑わいを感じさせる駅とする。

※ 連絡通路やエレベーターはデザイン対象外。

※ デザインについては、施工性・経済性や維持管理等の観点から、今後、変更の可能性があります。